

# 【第6学年】児童の課題及び授業改善策

〈令和2年度〉

	児童の実態	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆話したり聞いたりする力は身に付いてきている。</li> <li>◆自分の考えや思いを文章で表現する力に個人差が見られる。</li> <li>◆文や文章を読み取る力は身に付いてきている。関連する事柄と比較したり、それらを解釈したりする力を高める必要がある。</li> <li>◆基礎的な言語力は身に付いているが、日々の学習活動の中で生かすことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科、特別活動、行事において、可能な範囲内で話し合いの場面を意図的・計画的に設定していく。</li> <li>○日頃の授業の中で、自分の考えを書く場面を設けるとともに、よりよい文章モデルを示しながら指導を充実させる。また、文章を書くことが苦手の児童には個別に指導・支援していく。</li> <li>○文章を読みながら大事なところ、キーワードを見つけて読み進め、それをまとめて要約する力を高めていく。また、読み比べる学習活動を充実させると共に、解釈するための課題設定の工夫を行っていく。</li> <li>○あらゆる学習活動において、言語の指導を行う。日頃の学習の中で、主語と述語の関係に着目して文章構成を考えさせるよう意識する。また、漢字や言葉の意味が分からないときには辞書を使って調べる習慣を身に付けさせていく。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆歴史分野に高い興味・関心をもつ児童もいる。</li> <li>◆関連する資料を読み取る力は身に付いているが、課題解決のために様々な情報を整理したり、まとめたりする力に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が興味・関心をもって取り組めるよう、知的好奇心を高める資料提示や問題解決型学習の充実に努める。学習課題の設定を意図的・計画的に行っていく。</li> <li>○情報を整理する方法、情報のまとめ方について、モデルを示しながら全体指導を行っていく。また、課題自力解決のための時間を十分に確保し、経験を積みながら力を付けていく。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆四則計算の習熟における個人差がある。</li> <li>◆様々な方法を知ること、よりよい解決方法が見つけられること、数直線や図を用いることで問題場面をイメージしやすくなるということに気付くことができない児童がいる。</li> <li>◆身近な生活場面を想定した問題で、既習の内容を活用することに課題が見られる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟度別のグループで学習し、個に合った指導を行う。支援を必要とする児童については、習熟度別のコースの人数配分やコース分けを工夫し、個に応じた学習をして定着を図る。</li> <li>○数直線や図を積極的に活用させ問題を解決する有効な手段であることを知らせる。また、児童の実態に応じて、比較・検討場面での内容を取捨選択し、学びを深めていく。</li> <li>○教科書の問題だけでなく、身近な場面に置き換えた問題を設定したり、単元のまとめで発展問題を設定したりして、身の回りの場面に活用していく力を身に付けていく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆観察や実験には意欲的に取り組むが、予想と結果の違いの原因を考察する力、正しい結果が得られない時の実験方法を見直す力には課題が見られる。</li> <li>◆理科に関連する学習用語や実験の技能面において課題をもつ児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○観察や実験を行う際には、その目的を明確にして行うようにする。また、振り返りを確実にし、結果から明らかになったことを自分の言葉で書くようにする。また、グループの結果から結論を導く際も、他のグループの結果と比較しながら結論をまとめていく活動を設定する。</li> <li>○正しい学習用語が定着するように、教室掲示や学習シートでの確認をすることで定着を図る。実験の際は、器具を正しく使えるように演示をしたり適切な助言をしたりして、技能面の向上を図る。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自らの課題を設定し、課題を追究する力は概ね付いてきている。見通しをもって活動に取り組む力や課題追究の方法を具体的に指導していくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人に具体的なめあてをもたせるとともに、全体の計画をもとに課題解決に向けて計画的に取り組む事ができるようにする。毎時間めあてを振り返ることで、計画を修正して行く力も身に付けさせていく。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆課題に対して真面目に取り組む意欲もある。主体的に課題を見付ける力を更に高めたい。</li> <li>◆技能面において個人差があり、苦手の児童への個別指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現力、鑑賞力向上のため、一人一人「考え工夫する」具体的めあてをもたせると共に、学習の中で互いの表現の工夫や良いところを発表し合い、学び合い高め合う学習をさらに取り入れるような指導の工夫を行う。</li> <li>○個に応じた指導を継続して行う。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆主体的に課題に取り組む意欲をもっている。</li> <li>◆発想を広げたり、自分なりの考えをもつことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体の計画を提示し、計画的に取り組む事ができるようにする。振り返りの場面を大切に、自分なりの見通しをもって活動できるようにする。</li> <li>○様々な例を見たり、課題に対する考察を深めることで、思考を深められるようにする。</li> <li>○自信をもてるように形成的評価を意図的にし児童に伝えていく。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆調理や裁縫の実習に興味をもって取り組んでいるが、ミシン縫いははじめとする技能面での個人差がある。技能習得のための個別支援が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別支援を充実させ、丁寧に分かりやすく指導していく。また、繰り返し練習をして経験を積ませるために、技能習得のための活動時間を意図的・計画的に設定する。習熟度別の活動、実習時の場作り等の工夫に努める。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆運動に対する意欲には個人差が見られる。</li> <li>◆投力に課題があり、ボールを投げることに苦手意識をもつ児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の興味・関心を高める学習活動を設定する。運動量を確実に確保する。学習カードを作成し、一人一人の目標を具体化していくとともに、振り返りの時間も確保するなどし、一単位時間の充実に努める。</li> <li>○ボール運動領域の指導では、投げ方の指導、投げる練習の時間と場を確保し、計画的に指導していく。ゲームの中で楽しみながら投力を高めることができるように、ルールを工夫する。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆外国語に興味をもち、活動に楽しく参加する児童が多いが、苦手意識をもつ児童もいる。ある程度の知識・技能は身に付いているが、学んだことを使って自信をもって表現する力を身に付けていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間のめあてをはっきりさせ、振り返りをする中で、その時間に何ができたようになったのかを一人一人が意識でき、自信につなげていけるようにする。</li> <li>○アクティビティを充実させ、児童が自分の思いを言葉にしたり、コミュニケーションを図る場面を多く設定する。</li> </ul>